

旧越中屋ホテル

越中屋ホテルは、小樽で初めてヨーロッパ建築様式で建てられたホテルでした。増加を続ける海外から小樽にやって来る貿易商や商人が宿泊する施設として 1931 年に完成しました。20 世紀初頭、小樽は北海道で最も繁栄している都市でした。1914 年に西ヨーロッパで戦争が勃発すると、小樽からヨーロッパへ向けて穀物・豆類・硫黄などの物品が出荷されるようになり、この国際貿易の波に乗る形で銀行や宿泊施設、料亭の建設ブームが訪れました。

越中屋ホテルは、1877 年創業の伝統的な旅館の越中屋旅館の別館でした。この旅館は 1900 年代初頭から英語のガイドブックにも掲載されていましたが、旅館経営者らはモダンで豪華なホテルであれば外国の宿泊客にもよりアピールできると考えました。神戸や横浜にあるヨーロッパ式ホテルを視察した後、旅館経営者らは、建物正面の中央の下の出窓のある 2 本の柱が特徴的な、アールデコ様式の 4 階建てホテルを発注しました。越中屋旅館の三角のモチーフがステンドグラスの窓に繰り返しあしらわれており、正面玄関の上にあるまぐさ石にも彫り込まれています。

創業から 10 年経った時、越中屋ホテルは日本軍に将校の社交場として徴発され、その後、第二次世界大戦の終わりに宿泊施設としてアメリカ軍に収用されました。1952 年にアメリカによる占領が終わると、ホテルの建物は一時社員寮として使用された後、2019 年にアンワインドホテルとして再開しました。建物正面やいくつかのステンドグラスの窓など、創業当時の特徴を数多くとどめています。越中屋旅館は現在も、同じ場所で営業しています。